

かつやまじょうあと ふくろ だいせき
8. 勝山城跡・袋田遺跡

所在地：勝山市元町1丁目、本町2・3丁目

調査原因：一級河川大蓮寺川改修事業

調査期間：令和元年6月3日～令和元年11月29日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

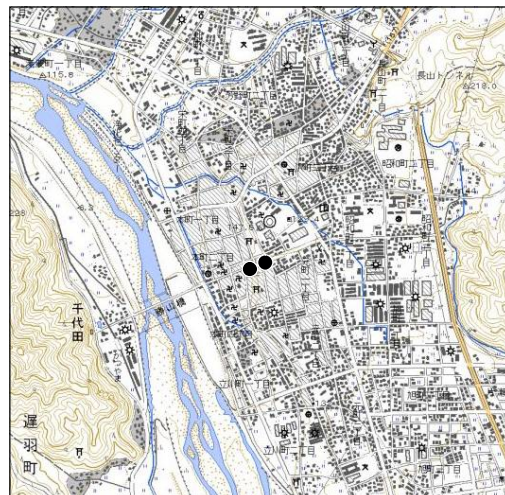
調査面積：1区 366 m² (183 m²×2面)

2区 640 m² (160 m²×4面)

合計 1,006 m²

時代：縄文時代晩期～弥生時代中期、

弥生時代終末期～古代、中世、近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 勝山(袋田)城は、天正8(1580)年に柴田勝安によって築城されましたが、いわゆる一国一城令により、元和元(1615)年に廃城となっています。その後、小笠原貞信が勝山藩に移り、元禄4(1709)年に幕府から築城を許され、文政10(1827)年まで、城郭や城下町の再建、整備が行われました。明治4(1871)年にこの城も廃城となっています。以降、都市計画などにより堀や土塁などは失われ、天守台や石垣も市民会館建設により昭和40年に取り壊されました。

過去に勝山城跡や袋田遺跡では、銀行の建設や電線地中化工事に伴い、勝山市教育委員会により調査が実施されています。前者では、馬出の堀の一部が確認され、後者では三之丸の堀や七里壁、寺院など勝山城やその城下町に関連する遺構のほか、弥生時代から古代の遺構も良好に残っていることが分かっています。

勝山城が描かれた絵図は10数点が残っていますが、元禄期のものが最も古いものです。これらの絵図によると、1区が城郭の土居や城郭と城下町を分ける七里壁、成器堂(勝山藩校)が所在していた箇所該当します。2区は城下町にあたり、町屋や寺院(正等寺)が位置し、「元禄勝山城下絵図」によると、現在の本町通りや後町通りに沿って家屋が密集している様子が描かれています(図1)。

遺構と遺物

1区 近世(第1遺構面と呼ぶ、17世紀以降)と中世後期(第2遺構面、15～16世紀)の遺構を確認しましたが、調査区東側は、元禄線の道路を造る際に削平されたと考えられます。

第1遺構面では、七里壁と想定する2、3段の石垣を確認し、この石垣の下方には犬走状の段が2段確認しました(図2)。その他の遺構として、調査区西側で石組みの井戸1基を調査しました。今回の調査で見つけた井戸は石組または素掘りのものばかりで、木組のものは見られません。

第2遺構面は、用途不明の大小さまざまな穴や石組みの井戸を確認しています。また、調査区西側は自然に埋まった窪地(旧河川の可能性もある)であり、この谷の埋土から中世後期の陶器が出土し、この時期に埋没したと考えています。15～16世紀の陶磁器が主に出土しました。

2区 大きく分けると4つの時期の遺構の調査を行いました。近世（第1遺構面、17世紀以降）、中世（第2遺構面、15～16世紀）、弥生時代終末期～古代（第3遺構面）、縄文時代晩期～弥生時代中期（第4遺構面）を確認しましたが、調査区東側の一部は現代の工事などにより、削平されてしまったと考えています。

第1遺構面は、井戸4基、建物の柱材を据えるための穴（以下、柱穴と呼ぶ）20基以上、大きな穴（以下、土坑と呼ぶ）18基、石組みの遺構などをみつけました。狭い調査区でしたが、比較的多くの井戸が確認でき、家1軒に対し1基の井戸を保有していた可能性があります。また、四辺を川原石によって囲われた土坑や断面の形がフラスコ状をした土坑が確認でき、溜枡または貯蔵庫として機能していたと想定しています。17世紀以降の陶磁器や石臼などの石製品が出土しました。

第2遺構面では柱穴や用途不明の小さな穴（以下、小穴と呼ぶ）20基などをみつけましたが、遺構は多くなく、出土した遺物も少量でした。14～16世紀の陶磁器が主に出土しています。

第3遺構面は、出土遺物が少なかったため、その時期を特定する手がかりがありませんでしたが、周辺で行っている調査や出土した土師器の小さな破片から考えると弥生時代終末期から古代の遺構面であると想定しています。この遺構面では小穴が約15基みつけられました。古代以前の土器は1区では出土していないため、段丘下位にこの時期の遺構が広がっている可能性があります。

第4遺構面では、旧河道をみつけました。縄文時代晩期や弥生時代中期の土器、打製石斧が出土しています。

まとめ 本年度の調査は、狭い調査範囲であったが、七里壁と想定する石垣や城下町に関連する遺構などを調査することができ、比較的良く遺構が残っている状況が確認できました。来年度以降も引き続き調査を実施する予定ですので、絵図に描かれた勝山の街並みがより明確になることが期待しています。

また、近世遺構面の下層には、絵図が残っていない中世の遺構が広がり、今まで明確ではなかった遺跡の様相を確認することができました。柴田氏が治めていた時期の城下の様子やそれ以前の集落の様子についても、今後より具体的になっていくことを想定しています。

（三原翔吾）

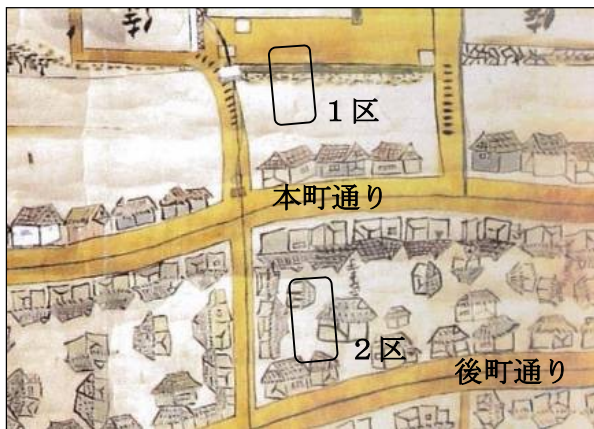


図1 元禄勝山城下絵図と調査区位置図



図2 七里壁と想定する石垣（1区、南西から）